

酒々井町

郷土研究会会報

第106号

平成14年10月1日  
酒々井町郷土研究会  
広報部

酒々井地域の遺跡 (2)

上岩橋遺跡

小谷龍司

本遺跡は現在国道51号線に隣接する土地区画整理地内の、印旛沼の湖岸にありがちなやせ尾根上に所在しました。土を盛るのではなく周囲を削って作り出した「削り出し」の古墳と通常よく知られている築造方法のものを計6基と、古墳時代前期(4世紀)と後期(7世紀)の住居跡12軒、弥生時代後期(3世紀)の住居跡と奈良時代(8世紀)の住居跡を各1軒検出しました。

古墳についてはやせ尾根上に所在する古墳としては比較的類例の多い築造方法をとっていますが、4世紀代から5世紀代に築造された古墳で古いものは類例として多くなく、またこのような地形で密集するタイプになると更に限られるようです。またこのような地形に造る古墳はいずれも墳丘が低いという特徴を持っています。これは墳丘を造るために必要な土を確保するために周辺を削っていくわけですが、やせ尾根のためほとんど土が確保できない、周溝を掘った際の土をかき集めてもまとまったと言えただけの量は集まらないことによります。そのため周囲の地形をある程度削平してなおかつ土盛りを行うことによって相対的に墳丘を高く見せようとしています。

このような築造方法をとっているため本遺跡のような「削り出し」の古墳を密集して造る例は前述したように非常に限られることになりす。「調査区南半部」の写真を見てください。調査区最奥部に1基だけ非常に墳丘の高い古墳があります。他と同じ削り出しの古墳ですが墳丘は他の二倍以上の高さを持っています。



出土遺物からこの古墳群で最も高いものと推定できます。なぜこれだけがこのように高い墳丘を持っているのでしょうか。

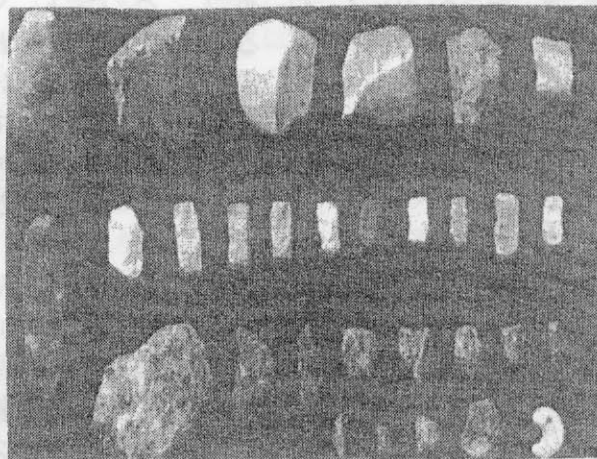
現地はこの付近でもっとも標高が高く、この台地の中でもっともまとまった平坦部を持っています。おそらく台地で一番いい位置に一番最初に古墳を造る、めいっばい周辺の土をかき集めて造ったのではないだろうかと考えることができます。その結果その後には造られた古墳はほとんど盛土のないごく小規模な造りにせ

ざるを得なかつたのではないでしうか。副葬品については目だつたものはあまり多くなく、まとまつて出土したものは2基のみで、内1基については墳頂部付近の埋葬施設において直刀・管玉（管玉）・勾玉（勾玉）・ガラス小玉が計7点出土しました。石棺などはなく、木棺による埋葬の形をとっていました。

住居跡に目を転じてみると計14軒が見つかつていますが、このうち古墳時代前期（中期）（4世紀から5世紀前半）にあたるのが5軒ほどあります。これらの住居跡は古墳の副葬品としてよく知られる「管玉」や「玉」の模造品を製作していたようです。この時代の「玉作」や模造品の工房跡は地域的に非常に限られ、近在では成田市玉造・八代のみです。製作技術的にも近いものがあり、両者の技術・流通面での関係が指摘されています。

この遺跡は古墳（墓域）と住居跡（生活域）という二つの違った性格を持つています。前者は印旛沼を眼前に控え非常に見晴らしの良い立地に造られました。土地の有力者の權威を示すためです。後者は成田の

「玉作」との経済的関係を考えることができ、同じ遺跡でも全く性格の異なる目的をもつて営まれたことを示す好例といえます。



背高泡立草と実蔓

亀井香久乃

秋到来で、よく目につくのは背高泡立草です。北米原産帰化植物のこの草は、明治年間に観賞用として渡来し、第二次大戦後、急速に各地の荒地を圧しました。この草が、従来の草地に一度芽生えると、本草が待つ特別物質の作用により、周りの植物を枯らし、ある期間は其処では

王者の感さえあります。だがこの一種だけになると自ら出す物質作用で自家中毒を起こし自然に衰退し、何年後かには以前の草地に戻るそうです。ススキ等、初めは負けても多年草ゆえ、根はしつかりがんばり、やがて元の勢力を取り戻すようです。「日本男子（尾花）、帰化ものに負けてたまるか」といったところでしょう。初夏の頃、山端や民家の生け垣に、白い小ぶりの花をつけ十一月頃、真っ赤な小粒の実を集合し、球形の実なりとなる実蔓は万葉集にも読まれている古来からの日本植物です。モクレン科のこの蔓植物は別名美男蔓ともいいます。古代の人達は、実蔓の茎に含まれている粘液を、製紙に使ったり、髪つけ油の材料にして利用していました。特に男性にとつては唯一の整髪料だったようです。明治末期から大正期にかけての女性解放運動の先駆者『平塚らいちよう』女史は、『祖母上の手作りの実蔓の油で髪を梳いてもらうのが日課だった。』と著書にありました。自然にこだわる純正志向の方は試されてみるのも一興かと存じます。

### 郷土史講座 伊能忠敬を聞いて

山口憲一

今年の夏の郷土史講座は文化財評論家・久保木良先生を迎えて「偉人の誕生に影の人あり」の演題で、伊能忠敬にまつわる話を聞かせていただいた。

「偉人」とは伊能忠敬、その「影の人」は久保木講師のご先祖の久保木清淵(号は竹窓、字は蟠龍)を指す。この数年、伊能忠敬ブームが起きていたが、米屋の家業を五十歳で隠居した後、志を立てて新しい人生を歩み、大事業を成し遂げた伊能忠敬の生き方が、現代の高齢化社会の人々の心に響くものがあるのだろう。

江戸時代後期に全国を歩いて測量し、最初の日本地図を作りあげたのだが、これだけの大事業には多くの人たちが参加して組織的な活動によって、はじめて成しえることである。その裏方の最大の功労者が久保木竹窓(蟠龍)だったという。忠敬は地図が未完のうち七十三歳で没するが、竹窓はその死を秘密にして全図を完成させた。

竹窓は佐原出身の漢学者であるが、「下総に過ぎたるものが二つある。

成田不動に利根の蟠龍」とうたわれたほどの逸材であり、その学問と人格を頼って数百人の弟子が集まったという。

忠敬は三十七歳で名主となるや、当時二十歳の竹窓のもとで漢学を学び、後年に地図作成の時には、忠敬の懇請に応じて竹窓はこの大事業の参謀役となって伊能忠敬を支えた。もし竹窓なかりせば「大日本沿海輿地全図」の完成はなかったのである。う。大きな事業の影には必ずこういう人物が存在するものである。そのご子孫の久保木講師の話は、現代の政治や企業経営、文化行政にまで歯切れのよい批評が展開されて、夏の日の午後、われわれ聴衆に充実したひとときを与えていただいた。



### 楽しく歩いた木下街道

高木正浩

泉新田で待っていて下さった榎本先生のご案内で泉王寺へ。

漁不動尊として利根川水系を中心に広大なる信仰圏あり、向拝の柱の傾きにも歴史の重みを感じられる。大木戸までの途中の木の庚申塔も珍しい。

大森へ向かう木下街道は、いまトラックがボンボン行き交う幹線道路、途中から田圃道に入り平安時代創建の長楽寺へ。本堂には如意輪観音と千手観音の二体が安置され、足利義満のころに寄進された梵鐘(県文化財)も保存されている。近くの鳥見神社の本殿の四周の木彫は見事で、江戸時代のこの地の大工の活躍が偲ばれる。

印西市役所に接する様に立つ小さなお社は「天野川弁財天」人々のくから勧請されたものであった。午前中大変お世話になった榎本先生に深く感謝して、午後からは地元の浅野さんの案内で、上町観音堂を経て木下へ。昨年四月に行徳からスタートして二年越しに皆で歩いて到達した河岸跡。いまはただ利根の川面が鈍く光っているだけの所だけれど、最盛期には五十軒余りの旅籠や茶店が並び、銚子方面からたくさん、鮮魚が着き、香取・鹿島の宮参りや、銚子への磯遊びのお客を乗せた木下茶船が次々と出発した頃に想いを馳せ

ると胸が熱くなる。  
堤の上で会長から木下街道完歩証  
を頂きゴールイン。

岩槻方面見学記

箕輪光正

九月十三日、前日までの残暑が嘘  
のような涼しさである。

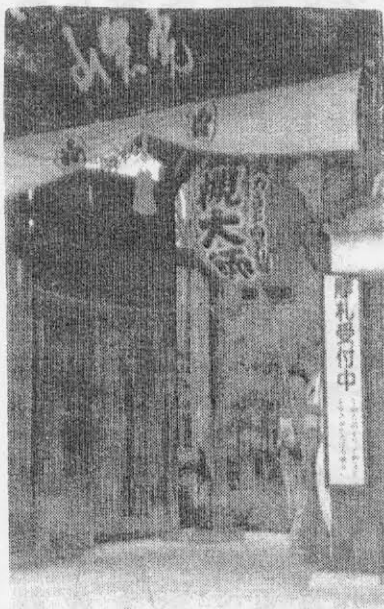
通勤時間帯を避けた八時二十二分  
本日の参加者二十四名、京成電車に  
乗り込みウトウト微睡んだ頃船橋駅  
で下車、東武線に乗り換え岩槻駅に  
は十一時七分到着、駅前デパートで  
昼食の調達者あり小休止。十一時三  
十七分住宅域内に所在する「閑東三  
十六番不動霊場三十一番岩槻大師喜  
多向厄除け不動」に到着、境内の立  
木類はよく刈り込まれ庭園はきれい  
に掃き清められ私たちを迎えてくれ  
た。

早速本堂で僧侶の説明が始まった。  
身振り手振りて艶っぽい話をませて  
の話術は最高、最初から抱腹絶倒の  
場がしばしばあり、古事来歴の奥義  
の説教で我々を遇してくれた。そし  
て圧巻は、僧侶から一摘みの香を手  
に受け両手で摺り合わせながら不動  
明王を拝顔でき、また先達の案内で

四国八十八か所のお遍路道場に参拝  
できたこと。本堂から地下への階段  
を下りると中は真暗闇、先に進むに  
は滑らかな壁面・通路も摺り足、手  
探りで進む。タイムトンネルの道に  
は縁を得る鈴を鳴らし、八十八体の  
大師仏像に各自、年齢の前で大師様  
に縁を結んできた。

続いて旧日光街道沿いで人形の東  
久の人形歴史館を見学した。

趣のある贅を尽くした数棟の展示  
館内には日本人形の歴史館、昔の人  
形や現代名工の人形が所狭しと陳列  
され、なかでも日本で四体しかない  
といわれる一体が展示されておりそ  
の価格は何と驚くなかれ六〇〇万円  
とか、また皇室関係のご用達も賜っ  
ているとのことであった。ここでの  
説明者もさすがに我々を引きつけて  
はなさなかつた。あつという間の充  
実した一日であった。



お知らせ

上田副会長

社会教育功労者表彰を受賞

七月三十日(火)、佐倉市音楽  
ホールで行われた平成十四年度印旛  
郡市生涯学習振興大会で、副会長上  
田悦子さんは、昭和五十九年より現  
在まで町文化財審議会委員として文  
化財行政に尽力され、文化財保護と  
普及に貢献した功績を称賛され、社  
会教育功労者表彰を受賞されました。  
今後益々のご活躍を期待しており  
ます。

郷土研日誌

月日	内容	人数	月日	内容	人数
6/23	編集	6	8/29	記念誌製本	17
26	印刷	7	30	研修下見	3
29	会報発送	22	9/5	運営委員会	22
7/6	史談会	13	6	編集	7
16	古文書学習	9	7	史談会	12
8/3	運営委員会	21	13	名勝探訪	24
18	郷土史講座	83	17	古文書学習	12
28	研修部会	13	21	編集	8

# 見学

## 案内

### 日帰り見学会

#### 大原方面



十一月十二日(火)

冬には一斉に咲き乱れる椿の里として名高く、かぐわしい香りの漂う大原の地を歩いてみましょう。

\*大聖寺(波切り不動)

明王山大聖寺と号す天台宗の寺で、海難から漁師たちを守るお不動様として、沿岸の漁民たちの厚い信仰を集めています。海岸近くの丘の岩場を切り開いたところがあり、素晴らしい景観を楽しむことができます。境内にある不動堂は、室町時代に造営されたものといわれ、国の重要文化財に指定されています。

\*照願寺

毘沙幢山照願寺と号し、貞応元年(一二二二)創建の古刹で、浄土真宗本願寺派に属します。

\*八幡岬

太平洋に突き出た断崖の岬で、高部に八幡神社があり、雄大な太平洋の眺めが素晴らしい。かつてこの地は、鎌田美濃守の居城があったところで、岬には若山牧水歌碑が立っています。

#### 名勝探訪

#### 寿不動院方面

十二月四日(水)

雨天代替十二月六日(金)

上野から銀座線に乗り換えて田原町に行き、関東36不動霊場の第2番寿不動院へ参ります。この不動明王は、「子守不動」と呼ばれ、わが子のことを一心に祈れば無病息災に子が育ち、良縁にも恵まれるそうです。浅草付近で自由昼食をして、午後は浅草寺へ行きます。ここは「浅草の観音様」と呼ばれ、都内最古の観音信仰の寺で坂東第13番札所で、縁起によると、隅田川から一寸八分の聖観音菩薩が見つかり、奉られたのが始まりで大化元年(六四五)が当寺の開山となっています。境内には、歌碑・句碑・記念碑など







#### あとかき



記録的な暑さが続いた暑い夏もようやく過ぎ去り、さわやかな気持ちよい季節になりました。秋の感じ方は、他の季節に比べて個人個人が違ってくるのでどこかで聞きました。皆様はどう感じられますか。郷土研打ち合わせ後、町内史跡巡りで行った酒々井パーキングエリアで食事をしてきました。山菜そばが美味でした。東関東道側道からすぐ入れます。時間がある時行かれてみてはどうでしょう。郷土研行事も四期目を迎えます。今回の野草観察会は墨方面へ行きます。今めずらしい野草を見ながら、秋風の中で地元の自然にふれてみるのはいかがでしょう。皆様のご参加お待ちしております。

# 郷土研行事案内

平成14年10月~12月

<p>史談会</p>	<p>10月 休講</p>	<p>11月 休講</p>	<p>12月 7日(土) 13:30 会議室 「道が語る酒々井の歴史」⑩ 講師: 高橋健一先生</p>
<p>古文書を 読む会</p>	<p>10月 15(火) 13:30 社会福祉協議会 「教訓心学図絵序」</p>	<p>11月 19日(火) 13:30 社会福祉協議会 「教訓心学図絵序」</p>	<p>12月 17日(火) 13:30 社会福祉協議会 「教訓心学図絵序」</p>
<p>野草 観察会</p>	<p>10月10日(木) 雨天中止(問い合わせ8:30~9:00犬島まで) 集合時間・場所 9:50 中央公民館 観察場所: 墨方面 参加費100円 弁当・飲み物持参 ツリフネソウ群生地を観察します。 観察後六所神社脇墨ふれあい館にて昼食・勉強会をします。</p>		
<p>ま 日帰り 見学会</p>	<p>11月12日(火) 「大原方面」 定員: 33名 町バス使用 公民館前集合8:30 会費: 2000円(昼食付き) 申込受付10月11日(金) 9:00~10:00 公民館ロビー キャンセル 実施日3日前までに青木朝次宅へ 公民館——八幡神社(大原町)——大聖寺(波切不動尊)——照願寺 ——公民館 (30分程歩きます。 場合によりコース変更あり)</p>		
<p>名勝 探訪</p>	<p>12月4日(水) 「寿不動院・浅草方面」 雨天代替12月6日(金) 集合 京成酒々井駅 8:15 京成酒々井駅——上野——銀座線田原町——寿不動院— 浅草寺——都営浅草駅——京成酒々井駅 (自由昼食) (場合によりコース変更あり)</p>		